



# ZENFUREN

2015年10月2・3日

## 号外

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校 PTA 連合会  
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29  
虎ノ門産業ビル 8F  
TEL : 03-3591-2091  
FAX : 03-3591-2092

### 全附P連PTA研修会 第5回全国大会

#### 校種別分科会

#### 小学校部会

「向き合うべき我が国の状況」、「高大接続システム改革」、文部科学省大学振興課大学入試室長補佐、荒木氏が語る教育の現状。そして子どもたちが今やるべき事とそれを支える家庭と学校の役割。



子どもたちの65%は、今は存在していない職業に就くと予測されています。社会の持続的な発展の為に子どもたちは何を見つけ、どのように貢献していくのが課題になります。そういった社会に適應する子どもを育てていく為にも、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を改革していく必要があるのだと言われています。

これに伴い、平成32年度（現在の中学1年生）から大学入試は確実に変化していきます。現在は、選択問題が多いですが、今後は「思考力、判断力、表現力」を問われる記述式の問題が導入されます。平成32年度～35年度は短文記述、36年度以降はより文字数の多い記述式が導入されます。答えが一つに定まらない問題に自ら解を見だしていく能力が問われるのです。

その後、荒木氏のお話を踏まえて、どのような子どもに成長して欲しいか、親としてできる事や学校に望む事について、テー

ブルごとに話し合いました。保護者の方の意見では、リーダーシップのある子や人の為に尽力できる子など、さまざまな意見が発表されましたが、その中でもやはり主体性、探究性、人間性を大切にしたいといった意見が多かったように思いました。

附属の教育は、課題を自分で探し、さまざまな方法で調べる。自分の意見だけでなく友達同士で話し合い、諦めずに考え出した意見をみんなの前で発表する事ができる。日ごろ培った論理的思考力や問題解決力を活かせる、まさに平成32年度から変わる「大学入試の為の教育」ではなく、「国際社会に適應した人材を育成するに相応しい教育」ではないでしょうか。今、私たちにできる事は、家庭と学校との連携を更に深め、子どもたちが安心して学べる環境作りに力添えし、そして何よりも暖かい目で見守ってあげる事と考えます。



神戸大学附属小学校  
PTA会長 寺畑俊雄 取材